

令和5年度 福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議 議事録

- 1 日時：令和5年8月22日（水）14：03～16：00
- 2 場所：福岡市総合図書館 3階 第1会議室
- 3 出席者：委員）上村篤子、岡本洋幸、白根恵子、増田亜希子、安永行政（計5人）
事務局）立石総館長、松崎館長、中村均運営課長、中村裕図書サービス課長、
高巣文学・映像課長 他
傍聴人）1名

4 議事録

1. 開 会

委員紹介／事務局紹介

2. 委員長の選出

委員の互選により、白根委員を委員長に選出／（傍聴人入室）／総館長挨拶

3. 議題

（1）令和4年度新ビジョン事業計画の取組状況及び内部評価について

委員	<p>【事業別の評価調書について】</p> <p>≪図書館像：誰もが楽しめる魅力ある図書館≫</p> <p><1 分館の新設></p> <p>早良南図書館・南図書館が順調に開館し、いろんなイベントもあって利用者が増えている報告が載っていたが、その先、例えば中央図書館等は昭和55年度に建てられたものであり、城南図書館などまだ古い図書館がいくつかあるが、それに向けた取り組みは行われているか。</p> <p><4 図書館イベントの充実></p> <p>読書フォーラムがかなり限定的になってきている印象を持っている。</p> <p>以前は、アミカスや別の施設を使用し行っていた。コロナ禍となり、これまでと同じことはできない状況の中で、図書館の担当者から「もしできるとしたら何ができるでしょうか。」というような問い合わせをいただいたこともあったが、去年は、特に何も知らされていない状況での開催だった。どのような考えで去年は実施したのか。</p>
事務局	<p>1点目の南図書館以外の築年数が長い図書館の整備については、まだ計画は出ていないが、南図書館を皮切りに順次整備されていくと考えている。</p> <p>各図書館は市民センター、地域交流センターと一緒に入っており、それらの整備に合わせて更新されていくため、市民局と調整しながら進めていきたい。</p> <p>2点目の読書フォーラムについては、コロナ前はアミカス等、一つの施設に一日だけ、関係団体に集ってもらいイベントを開催していた。コロナ禍に入り、開催していなかったが、昨年度はまだコロナの影響が残っている中で、何らかの形で開催したいということで12月に絵本月間を新設し分館・本館が連携しながら分散した形で、絵本の展示やさまざまなおはなし会等それぞれで催しを行った。</p> <p>今後の実施内容については、関係団体の方の要望も聞きながら検討していきたい。</p>
委員	<p>イベントができないにしても、各団体との連携を継続して持つておかないと、団体としては実施されないものになってしまう。小学校の活動等でも、コロナ禍でも</p>

	<p>何とかして連携を取っていたところが、コロナ明けの活動再開は早いようなので、繋がりを保つことが大事と感じた。</p>
事務局	<p>委員のご指摘どおり、読者フォーラムという形ではないにしても何等かの形で連携していくということは検討しないといけないと考えている。</p>
委員	<p><1 分館の新設> 実際に早良南図書館へ行ったが、非常にコンパクトで対応もスムーズで好評価である。</p> <p><2 貸出・返却拠点等の新設> 返却拠点を増やすことはできないのか、検討をお願いしたい。 例えば公民館とか、そういうところも増やしていけば、利用者にとっても便利と思われるため、その辺を検討したらどうだろうか。</p> <p><3 休館日、開館時間の見直し> 閉館時間について、東図書館を除いて駅近くの分館が午後6時で終わる。あと1時間延長できれば通勤される方が駅に降りて返却できる。開館中に入ることもできる。 本館は午後8時まで開館しており、私も午後7時半ぐらいに実際に来たことがあるが、人が少ない。交通の便が悪く、周辺が真っ暗なのが理由ではないか。特に女性は来るのに大変と思われる。本館を遅くまで開けるより、むしろ分館の方の閉館時間を考えれば、もっと効果的な運用ができるのではないか。</p> <p><4 図書館イベントの充実> 様々なイベントが実施され大変素晴らしい。ただヤングアダルト層へのアプローチが弱い気がする。実際ビブリオバトルを見学したが、去年は参加校も減っていた。 それから、紹介している本はこういう本だとか、ビジュアルを見せながらやるとか、もうちょっと効果的な方法があってもいいと思う。予算等の兼ね合いもあると思うが、運営をもうちょっと工夫すべき。せっかくシネラもあるので、シネラも映画だけでなく、例えば最後の決勝をするなど、そういう運用上の柔軟性があってもいいと思う。</p> <p><5 快適な空間づくり> 内部評価がAであるが、私の評価とは違う。内部評価の記載内容は、いわゆる行政側としてはきちんとしておりいいと思うが、利用者に対して、本館の老朽化は仕方ないことだが、それはそれとして気を配るべきポイントはある。例えば中庭はビジュアル的に手を入れて、「こんなふうにしめる。」とすることもできるだろう。 それから運営審議会の時も申したが、VHSが開架しているスペースなど、その辺ももう少し工夫が必要と思う。 内部評価に記載している、保全計画に基づいた様々な取り組みは十分確認した上で、利用者にとって魅力ある図書館というのは、目に見えるところをどうするかポイントと思うため、私の評価は内部評価と大きく違った。</p>
事務局	<p>まず、2番目の返却拠点の拡大だが、拠点を増やすにあたっては、回収するための運搬や施設側での準備が課題であり、それらは予算にも関係しているので、簡単に拠点を拡大していくことが難しい状況である。</p>

	<p>内部評価に記載のとおり西新駅に有人の福祉施設のショップがあり、そこでは手渡しで返却するようにしていた。その施設は、施設側の事情で閉鎖したが、西新駅の返却利用が多かったこともあり、何とか代わる返却ポストを設けられないかということで、交通局と協議を行い、返却ポストを新たに設けた。利用者のサービスの利便性の向上で一つの課題ということは認識している。引き続き検討させていただきたい。</p> <p>4番目のイベントについて、ヤングアダルト層への働きかけであるが、ビブリオバトルは本館の指定管理者と一緒にやっている。しばらく、コロナでこの2年間中止した年もあったが、令和3年度、4年度と何とか開催ができた。</p> <p>4年度の代表は、大阪で行われた全国大会で特別賞をもらうなど、一定の役割はあるというふうには思っている。</p> <p>ただ、頂いたご意見を参考にしながら、常にどんな形でやっていけばいいのか検討していきたい。</p> <p>3番目の休館日・開館時間の見直しの件、東図書館では遅い時間までやっていて、その他のところは18時までというご指摘について。</p> <p>東図書館と早良南図書館は開館時間が長く、9時から20時までとなっており、指定管理者の導入に伴うメリットである。他方、他の分館は直営の形でやっており、10時から18時までとなっている。</p> <p>他の分館でもできるのではないかについては、直営の良いところ悪いところの精査が必要なこと、人間的な面で調整が必要である。それらも含めて、引き続き検討したい。</p> <p>また、本館の開館時間は20時までとなっているが、ご指摘の通り、周囲が暗く足元が悪い部分がある。図書館だけで足元を明るくし、もっと来やすいようにすることは難しいが、指定管理者とも共働して、図書館の敷地内は明るい照明や電飾を設置している。ただ、十分ではないと考えている。</p> <p>5番目について、私どもは、計画通り長期保全計画に基づいて設備更新していることからA評価としている。</p> <p>しかし、利用者目線での改修の実施という委員のご指摘は理解できる。それに向け、内部で検討はしているが予算面などの課題があり実現に至っていない状況である。お金をかけなくてもできる範囲で、中庭の活用は工夫の余地があるので、考えたい。</p>
事務局	<p>前委員意見への、小学校の子供がいた母親目線での補足意見を述べたい。</p> <p><1 分館の新設></p> <p>小学校や幼稚園の親同士で「あそこ、よかったよ」というような口コミをよく聞くので、見た目がいいとか、利用しやすいことというのは大事と思う。</p> <p>また、自分の住まいから、いつもの交通手段で行ける場所というところが重要と思う。</p> <p><2 貸出・返却拠点等の新設></p> <p>返却拠点を増やすことは、返却から貸出のサイクルが早まる手段にも繋がる。いつも貸出中になっていて待っている本の貸出が、少しでも早まるのであれば、返却拠点の設置を進めていただきたい。</p>
	委員

<p>委員</p>	<p><3 休館日、開館時間の見直し> 特別開館日として、毎日ではなくていいので週に1回、夜遅くまで開いている日があると足を運びやすくなったり、返却しやすくなったり、蔵書を見やすくなったりすると思う。</p> <p><5 快適な空間づくり> 各地域の図書館というのはスペースが狭い。それぞれ展示や配置に工夫をされているが、掲示物が多く、懐かしいおばあちゃん家に帰ってきたみたいな雰囲気のところもある。見慣れてくるとそのままになりがちなので、外部の意見を取り入れながら掲示物を整頓してはどうかと思う。</p> <p><2 貸出・返却拠点等の新設>、 西新駅の返却拠点は重要な位置付けだったと思っている。外部から見ると、同じ市の事業者同士であり、廃止することが、事前に分かっていたはずだと思う。調整する時間があったと思うため、一旦廃止せずに継続することができたのではないかと残念だった。</p> <p><4 図書館イベントの充実> ここは逆に内部評価が厳しいと思う。 これだけのイベントをやると、色々なことを準備するのも大変と思う。取り組み状況の文章から、会場内の熱気が伝わってくる。しかもYouTubeまで配信し、図書館の職員がかなりの熱意を持って取り組まれており、ここは逆に好評価としたところだ。</p>
<p>事務局</p>	<p>西新駅の返却ポストについては、できる限り切れ目ないよう検討をしていたが、交通局との協議がなかなか整わなかったということや予算組みの関係で、令和4年度に福祉施設のショップが閉店してすぐに、代替の返却ポストを設置することは厳しい状況だった。利用者の方には不便をかけ申し訳なく思う。</p> <p>イベントについては、令和2年度、3年度とコロナでなかなか実施できないイベントもあり、4年度は、一部を除いてほぼコロナ前と同じぐらいにできるというところで、頑張ったところではあるが、コロナ前の元年度と比べ、実績としてももう少し頑張れたのではないかとということもありB評価とした。</p>
<p>委員</p>	<p>意見ではなく、2点提案したい。</p> <p><2 貸出・返却拠点等の新設>、 できれば分館から遠い地域の公民館などを分室扱いし、そこで返却できたり、予約した資料を取り寄せたりできるぐらいの配慮はした方が、図書館全体の利用にプラスになるのではないかと考えた。</p> <p><4 図書館イベントの充実> かなり以前の話ではあるが、ある図書館で、夜に施設前のスペースを、若者のダンスグループに使わせ、その人たちには掃除とかを手伝ってもらうような取り組みをしていた。そのように若い人を集めて図書館の利用につなげる、ということもあり得ると思う。</p>

<p>委員</p>	<p>《図書館像 : さまざまな情報を求める市民に応える図書館》 以下、事業内容毎にヒアリング</p> <p><6 資料収集の充実></p> <p>地域で、特に節分の季節にイベントを行っており紙芝居等借りることがあるが、その季節ごとのイベントの時に人気のあるものは借りられてしまい、すぐに借りられない状況である。ニーズの高いものは揃えてあると思うが、争奪戦になるものはもう少しあると嬉しい。</p>
<p>委員</p>	<p>「さまざまな情報を求める市民に応える図書館」ということで、事業計画の計画もすべて市民ニーズということを中心に書かれてある。</p> <p>公共図書館の役割としては、市民ニーズだけではなくて、例えば年鑑など個人ではどうしても揃えることが難しいものを図書館できちんと収集している、という点があり、それが評価結果として分かるようにしていただきたい。確かに市民が大事だが、図書館という役割はどうしてもあると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>早良南図書館は新しい図書館なので、わりと新刊が数多く並んでいたが、東図書館は元の東図書館から蔵書をかなり受け継いでいるので、若干、資料的に傷んだものが多い。全体的な予算になると思うが、資料費を何とか獲得できないだろうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご指摘の点については、図書館として取り組まないといけないと思っている。それには予算の確保が大事になってくる。引き続き、図書館全体として節約をし、本の方に回せないか等も含めて、検討していかないといけないと思う。そういう工夫、そういったところを精査しながら予算取りをしていくよう努めていく。</p>
<p>委員</p>	<p><7 レファレンス（相談）サービスの充実></p> <p>レファレンスに関しては、今後の図書館の活動でとても重要になってくると思う。こういう時代なので、電子メールなどのレファレンスというのは、今後も伸びていくだろうが、公共図書館においては、ある程度、対面のレファレンスがとても重要と思う。そういう意味で、レファレンス担当者の専門性の研修をしっかりとっていただきたい。</p> <p>情報化時代でありインターネットで探せるが、どうしても限られてしまうので、人と人が会って話をするという余地は残すべき。</p> <p>いつも思うが、レファレンスだよりについて、毎回3件ぐらい「こういう質問がありました。こういう問い合わせがありました。」とある。例えば「これに関してはこの本とこの本とこの本を紹介した。」と載っている。</p> <p>ただ、結局どういう問い合わせがあってそれをどう答えましたという事例をたくさん載せてもらった方が、「ああそうか、こういうことでも質問していいのか。」と感じると思う。レファレンスに質問することが、敷居が高く感じてしまっている。だからもう少しハードルを下げ、「こんなことでも、情報サービスとして図書館は対応できる」ということを示してもらったほうがいいと思う。そういうものをレファレンスだよりで紹介してもらえると嬉しい。</p>
<p>事務局</p>	<p>ここ数年、やはりコロナの影響もあり、来館しなくても問い合わせができるとい</p>

	<p>うレファレンスを重視した形で運営を行ってきた。ただ、実際には対面がほとんどになるので、そちらも大事だと認識をしている。</p> <p>研修を通じたレファレンス力のアップは、図書館でも大事な位置付けであり、図書館の役割でもあるので、その辺りは検討したいと思う。</p> <p>また、レファレンスだよりについて、紙面の関係上、主なレファレンス対応事例について掲載している。</p> <p>質問がたくさんあるのは当然なので、「こういった質問があったよ」「レファレンスという利用ができるよ」という広報・周知は検討したい。</p>
委員	<p><9 団体貸出先の拡大></p> <p>団体貸出先は増えているが、配本冊数全体は減少しているとあるが、どのような理由か。</p>
事務局	<p>登録団体は増えているが、実際に各団体に貸すというところでは、これまでに登録していたそれぞれの団体が借りた冊数が、少し減少していると思う。実際にこれがどういう傾向なのかは分かっていない。</p>
委員	<p>何か原因があるのかと思ったので、調べていただきたい。</p>
委員	<p><10 地域読書活動への支援></p> <p>親子を対象にしたスタンダード文庫を活用した本の読み聞かせの講座は、ずっと順調に行われている、となっている。もう少し大きい子どもへの絵本の読み聞かせの講座については、総合図書館で行われているが、総合図書館に来るのは敷居が高いと感じる人たちもいる。「親子で本を楽しむことを知りたい」「孫に絵本を読むにあたってどういう本を選んだらいいか知りたい」という方がかなりいるので、もう少し地域に飛び出したような講座も企画されるといいと思うがいかがか。</p>
事務局	<p>公民館など、このスタンダード文庫を活かした読み聞かせ講座をボランティアが中心になり実施している。公民館以外で、読み聞かせができる人材の養成を実施してほしいということか。</p>
委員	<p>住んでいる地域から離れたところでしか行われていないと、小さい子どもをお持ちの方とか、仕事がある方とかは、なかなか参加できない。したがって回数が多く、地域が広がれば広がるほど参加しやすいと思う。</p> <p>私たち読み聞かせボランティアネットワークは、年に1回、あすみんで研修を行うが、そこであすみんの職員に、「小学校のボランティアじゃないけれど、絵本の読み聞かせに関することを聞きたい。というお尋ねがいくつかあるが、参加してもよろしいか」と言われたことがある。「私たちは、小学校や中学校でボランティアする人たちの横の繋がりで行っているの、それは総合図書館に言ってください」とお願いしたが、やはり、もう少し来やすい形で講座が行われていたら、本を借りたいと思い近くの図書館に足を運ぶ、ということに繋がってくると思う。</p>
委員	<p>身近なところでは、例えば分館などで実施すると良い。</p>

委員	先ほどの意見でもあったが、公民館などでの実施もあってほしい。
委員	今まで何度か公民館主催の読書講座に招かれ、地域の方に話をした経験があるが、それは公民館の主事の考え方しだいのため、うまく図書館と連携させて実施していくと、しっかりとした講座体系に繋がっていくという気がした。検討してはいかがか。
事務局	分館と協議をしながら検討したい。 実際には、ありとあらゆる場所には行くことは難しいので、「こういった本が読み聞かせにはよろしいですよ。」という本の紹介などは、動画をY o u T u b eにアップしており、総合図書館のホームページにもあげているので、それも参考にさせていただきたい。
委員	動画を作られていることはとてもいいことではあるが、それをきっかけにして生 の声で伝えることが必要。雰囲気だとか「本当にいいのだな」とか、読み聞かせを 長くしてきて、いろんな経験のある方の話を聞くと「そんなこともあるんだ」とい うことが、毎回ある。そういうことを通じて、ふっと本の世界に入ってこられる方 もいるので、やはりもう少し細かく、地域に行くことができるように検討いただき たい。
委員	<p><11 市関連施設の図書室の相互協力></p> <p>「さまざまな情報を求める市民に応える図書館」について、串刺しするような提 案になるが、まず、内部評価については全く違和感がなく、「さまざまな情報を求め る市民に応える図書館」ということで、図書館職員は本を様々なところに持って行 き、見てもらうという活動をしていると思う。</p> <p>提案だが、本を活用してもらうには条件が二つあると思う。</p> <p>一つは人がいるところに持っていく。ただ、公民館というと常に人がいるわけ はないので、そこがネックと思う。</p> <p>もう一つは、本を借りたくても借りることができない人をターゲットにすること と思う。例えば医療機関とか、大きな病院、こども病院とか、そういった病院は常 に人がいて、本を借りに行くことは多分難しいと思う。そのため、そういったと ころに本を持って行くことが本を有効に活用していくことになると思う。</p> <p>そういう形で見えていたら、8ページにこの課題解決型支援の充実で九州がんセン ターから医師等を講師として招聘したことがあるとのことで、こういったネットワ ークを活用して、何か相談されることを提案する。</p>
事務局	団体貸出で病院、あるいは高齢者施設などにも貸し出しを行っているが、さらに PRしていきたい。
委員	<p>《図書館像 : 子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館》</p> <p><12 モデル児童図書リストの配布></p> <p>これからの話になると思うが、多分、今対象となっている子どもとは、日本人の</p>

	<p>子どもだろうと思う。多様な社会を実現するという意味では、今後、外国の例えば中国の方とか、韓国の方とか、そういう子どもも対象にしていくことになると思う。</p>
委員	<p>読書バリアフリー法という法律もあり、「読書に普通に手を伸ばせない人達に対し、もっと気楽に手が伸ばせるような状況を作りましょう」という対象の中には、日本語を母国語としない人たちのことも当然含まれているので、急にはできないかもしれないが、考えていかないといけないと思う。</p>
事務局	<p>ご指摘どおり、それらも視野に入れながら検討すべきと思う。また、長期的なビジョンも頭に入れ検討したい。</p>
委員	<p>これは本質的なことではないが、令和4年度の内部評価が書いてあるが、ほとんど3年度と文言が同じで、同じはずという気がする。そういう例が他のところでもあり、3年間も同じような文言があった。</p> <p>一步一步、5年間の年度計画があった上での各年のいろいろな評価だと思うが、変えていかないといけないと思う。本質的な意見ではなく大変申し訳ないが、特にこの13番に関しては、ほとんど同じである。</p>
事務局	<p>評価する視点としては、「あまり変わるところもない。」というところもあるが、もう少し、いろんな視点も加えてみるようなことが必要かもしれない。そういったところも含め、今後、評価していきたい。</p>
委員	<p>問題点があればそこを修正するような形で、次の段階に進めていただきたい。</p>
委員	<p>モデル児童図書リストに載っている本や、令和3年度の司書が選ぶ100冊の絵本などは、各分館や本館で容易に借りられるのか。品切れになっているものも載ることもある。そういう本は、閉架のものが多かったという印象がある。</p> <p>また、副本などは分館にも揃えられているのか気になる。</p>
事務局	<p>モデル図書や100冊の絵本などは、確かに借りられる機会がかなり多くなっている。その分「十分に図書を用意できるか」ということが課題となる。</p> <p>副本をたくさん購入することは、なかなか難しいところもある。他の分館でも借りられるため、そういったところも融通しながら対応していく。借りにくいという声は意識しながら検討していきたい。</p>
委員	<p><13 子どもの貸出カード作成推進></p> <p>イベントにも関係するが、やはり貸出カードを作ってもらい、本を借りてもらいたいと思う。例えば夏休みの自由研究などの基になりそうな、参加し本を借りてきて調べ物をすれば自由研究がクリアでき、子どもたちも参加したいようなイベントがあれば、貸出カードの作成推進に繋がると思う。</p> <p>福大や九大などで、科学のいろいろな実験を体験できる催しがあり、自由研究に役立てることを実施していた。</p> <p>科学に限らず、例えば美術でもいろいろなやり方があると思うが、そういうこと</p>

<p>事務局</p>	<p>を行う団体と一緒に手を組み、そこで貸出カードを作ってもらえるのはどうか。そのような楽しいことがあると、「そういうこともやってくれるんだ」となり、子どもたちを保護者が連れて来ると思う。特に分館ではいろいろな施設と一緒にいるので実施しやすい。</p> <p>本館では自由研究カードというものを作り、いくつかのテーマで無料配布をしており、小学生・中学生に図書館に来てもらい貸出カードを作ってもらうきっかけになっていると思う。</p> <p>小学校からの見学といった機会にも、貸出カードを作ってもらっている。</p> <p>また、市民センターで、いろんなイベントも開催しているので、そういった時に図書館に足を運んでもらいカードを作ってもらう取り組みは、各分館でもPRしながら実施したい。</p>
<p>委員</p>	<p><14> ヤングアダルト層（12歳～18歳）への働きかけの強化></p> <p>ここは内部評価と違い、取り組み状況から、私はAと思っている。</p> <p>中高生の貸出カードの登録者増に繋がっていないからBとあるが、それはこの目的ではないと思う。ヤングアダルト層への働きかけの強化であるから、イコール中高生世代の貸出カードを増やすということではない。Aでいいと思う。</p> <p>もし、中高生の貸出カードの登録者増という考えならば、多分違うインセンティブが必要である。例えば、彼らが夏休みなどに勉強する学習室を使用するにあたり、「貸出カードを作ってください」「カードがないと使えません」など、何かしら仕掛けをした方がいい。</p>
<p>委員</p>	<p>学習室の利用者をいかに図書館の利用者にするかということ。</p>
<p>事務局</p>	<p>ヤングアダルト層の図書館利用では、電子図書館は少し活用されていると感じるが、紙の図書となると、館内の様子ではあまり見受けられない。</p> <p>ただ一方、学習室にはたくさん来ているため、ヤングアダルト向けのチラシを置くなど、図書館にも寄ってもらう呼びかけをしているが、なかなか実際には、まだ効果的な取り組みにはなっていない。色々な取り組みを引き続き検討していく必要があると思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>今高校では、タブレットをほとんどの学校が授業のため導入している。タブレットを購入して、入学することが結構多い。そのため、彼らはその中で済ませたいというところがある。中学校に上がった子どもたちも、スマホや親のパソコンを借りて子どもたちだけで交流することが増えているので、家から出るということをし難い。</p> <p>私は評価をAと思っているが、ヤングアダルト層を獲得するだけの目的であれば、電子に絞り込んだほうがいいのか、という意見である。</p> <p><15> 読書活動ボランティア講座の強化></p> <p>意見なし</p>

<p>委員</p>	<p><16 学校図書館支援センターの充実> 支援活動は頑張っておられると感心する。図書館の問題ではないが、学校司書1人が5校担当は、学校司書がいるという状況ではないと思う。学校司書としての仕事はそれでは果たせないと思うので、1人の司書が担当する学校数を減らす働きかけを、支援センターを通してできないものかと思う。 佐賀市などは、人口も少なく予算も少ないが、各校に会計年度任用職員ではあるが必ず1人いる。学校によっては、子供がいる時間に司書がいけないのはいけないということで、サポートするパートの司書も含め1人以上配置されている。 できないことはないと思い、この場で言ってもしょうがないとわかっているが、思いを述べた。</p>
<p>委員</p>	<p>《図書館像：総合図書館の特色を生かした図書館》 <17 図書館外施設での映像資料上映事業> 私の住んでいる地域は住宅街であり、結構古い町のため高齢者がかなりおり、公民館に集まることがとても楽しみになっているため、いつも利用する場所でのイベントが楽しいようだ。このため、頻繁でなくても、定期的の実施されると楽しめると思う。とてもいい取り組みだと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>公民館では非常に好評であり、「普段、図書館の映像ホールまではなかなか足を伸ばせないが、こういうところで久しぶりに映画を見た」「アジア映画というものを初めて見たが非常に良かった」といった感想をいただいている。 現在、10作品を上映できるようにしている。また、上映公民館数も増え、今年度は20数館予定している。 今後、増やしていきたいところだが、職員がすべて行って上映できるかということ、そうでない面もあり、やり方を工夫しながら充実を図っていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p><18 資料展示事業> 毎回言っているが、シネラの前のショーケースは昭和時代のものじゃないか、という気がしており、何とかならないかと思う。 今日は食卓のパネルが展示されていたが、身長172～3センチの私の目線よりも文字が上の方にある。そうすると、見ようと思った人が見上げなければならない。展示、掲示の仕方だが、その辺も考えないといけないと思う。上の方に小さな文字があり、読む人がいるのかとを感じる。あるいは、ほんとうに読ませたいのかと思う。 その他の展示内容に関してはいろいろ面白いものがあつたが、掲示の仕方について検討をお願いしたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>プロムナード通路側のショーケースについては貸し出しをしているが、見やすさについては、実際に見せたい方々との対話がうまくいっていないところもある。 引き続き、見やすさという部分をよく伝えた上で、本当に利用者にとって見やすい展示になるように、努めていきたいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回の展示は行政関係のお知らせであつたが、資料展示の文字についてはご指摘のとおりと感じている。</p>

	<p>映像のポスターなどを資料展示に使うことがあり、今年度の4月・5月は、映画の特集に関するポスターや紙資料を展示し、映像ホールシネラとプロムナードで一体的に宣伝することで、PR、入場促進にもなったと感じている。</p>
委員	<p>現在の展示は、映像部門の展示ではないということと理解した。</p>
委員	<p><19 文書資料のデジタルデータ化・情報提供の充実> 古文書をデジタルデータ化し、ネットで閲覧できるようにしていただくと大変助かる。現物は簡単に見せてもらうことはできないが、ネットで見ればこちらまで出向く必要もないので、調べる人にとっては大変便利なものではないかなと思う。</p>
事務局	<p>古文書については、非常に利用頻度が高いものに関しては、古文書の目録だけではなく、中身も上げられないかということで、徐々にトライアルしているところである。例えば、明治一桁の年代の山笠写真資料が4点ほどあるので、そういったものをすでにデジタル化し、載せるなどの試みを行っている。</p>
委員	<p><20 文学館の利用拡大> 素敵な展示なども実施され、講演会なども聞きに行った記憶がある。</p>
事務局	<p>先ほどのヤングアダルトの項目を映像及び文学資料の観点から補足させていただく。 映像ホールシネラに中高校生は平日昼間に来館できないが、夏休み・冬休み・春休みあるいは土日に来館しているかということ、ほとんどいない。それは上映する映画の特徴からしてもそうなると思う。 中高生向け作品を強化するなどの収蔵方針の変更は厳しいものがあるが、一方で、アジア映画にも中高校生に見て欲しい作品もあり、中高生向けの取組みは今後の長期的な課題と考える。 私たち図書館は、中高校生へのイベントの呼びかけを非常に苦手としている。フィルム上映の映写機を見たことがない中高校生もいるので、使い方のワークショップを開催したいが、集客をどうすればいいか困っているところもある。 また、地元の出身の文学者を知ってもらい高校生向けの講座を9月2日に計画し、内容もかなり高校生に合わせたつもりだが、参加者集めに苦労している状況があり、その辺を克服しながら推進したいと考えている。</p>
委員	<p>対象の中高生にどうやって伝えるかということか。</p>
事務局	<p>来館していただけるが、なかなかゲートに入ってもらえない。</p>
委員	<p>どういうふう呼び込むか、その工夫が必要ということか。また、いろいろ考えていただきたい。</p>
	<p>≪図書館像 : 効率的で効果的な図書館運営≫ <21 運営方法の検討></p>

	<p>意見なし</p> <p><22 図書館ボランティアとの共働の推進> 意見なし</p> <p><23 職員の育成及び技術向上> 子どもたちに関わっていく図書館員は専門性が本当に必要だと思う。ある程度の長いスパンで居て研鑽を積む、ということを考えていただきたい。</p> <p>私自身、自宅で文庫をしているが、1人の低学年の男の子が急に歴史にはまったが、歴史の本っていうのはほとんどない。それで、どうしようかと思ったときに、私が頼ったのは、東京の教文館（書店）のナルニア国（子どもの本部門）だった。図書館に行こうと思ったが、専門的に読み込んで、新しい本も読み込んでいる人の方が詳しいと思った。</p> <p>そこで「武将事典みたいなものと、低学年だったら、鎌倉バトルロワイアルはどうでしょうか」ということで、おそらく図書館に置いていないような本ではあるが、「時代考証もちゃんとしているし、悪くはないです」と勧められた。「これが読めるようになったら、次はあまり有名な武将ではないけれども、こういう本もある」という紹介もしてもらった。</p> <p>やはり、ある程度長く関わって、いろいろなことを取り入れていこうという視点を持って、研鑽を積んでいないと、そういう紹介はできないと思う。そういう人が児童書の部門には欲しいと長年思っている。検討をお願いしたい。</p>
委員	<p>知識プラス経験も必要で、それは児童サービスもそうだが、先ほどの発言のようなレファレンスの担当者も経験という中で学ぶ部分が多いので、何年かで変わるのではなく、継続して経験を積めるような環境があるといいと思う。</p> <p>長期的に同じ部門に同じ人を配属することは可能か。</p>
事務局	<p>読書相談員が司書の資格を持った職員となる。職員の声も聞きながらになるが、ずっと同じ部門にしていることができるかどうかは、状況にもよると思う。</p> <p>あとは経験を積むために、いろいろな部門や分館を異動する形になっている。しかし、そんなに短いスパンでの異動はあまり意図していない。もちろん、本人の希望や家庭の事情も含めた中で異動は考えている。意見を踏まえてさらに検討したい。</p>
委員	<p><24 施設の有効活用などによる財源確保> 財源の確保は急務と思う。総合図書館の特徴は映像部門が併設されていることであり、特にアジア映画の収集は、全国的にも素晴らしいことと思うが、もう映画を買うお金がないと伺っている。これはもったいない。もっと収集を増やして、「あそこに行けばアジアの映画が見られる」という印象を確立させていくことを考えていくべきと思う。そのためにはお金が要る。</p> <p>予算がある程度制限されていることもあると思うが、例えば図書館フレンドシップ制の創設などがある。先日ニュースになったが、某科学館がクラウドファンディングを行った。別にそのようなことを実施しなくてもいいと思うが、寄付制度など、いい方法を探っていくことが必要と思う。</p>

<p>事務局</p> <p>:</p>	<p>現状のままだと、特に映像などはもったいない。だから、今あるものを貸し出して収入があったということではなく、新しい映画を入れ、「ここに来れば、アジア映画を見られる。」といった文化政策まで考えるべきと思う。</p> <p>そのためにも、財源確保の方法はいろいろ考えていただきたい。</p> <p>財源確保は急務だと認識している。</p> <p>今はふるさと納税に頼っている。ふるさと納税の額は、令和3年度と4年度の単純比較だが、250万円程増えた形で計上している。</p> <p>ふるさと納税が増えている理由としては、ふるさと納税の仕組みなどを説明する際、「こんなこともやっている」「このためにも、ふるさと納税制度を使ってください」など、イベントごとにSNS等で発信するなど、広報の工夫の成果ではないか、と分析している。引き続き、ふるさと納税制度を使い、財源確保に厚みを持たせたいと思う。</p> <p>あわせて、提案のフレンドシップ制など、また、寄付を募る取り組み等についても、検討は引き続き実施すべきと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>アジア映画の収集費がないことに対する懸念であるが、収集費が計上されていないのはその通りだが、アジア映画に関しては、やはり内外からの非常に評価もあり、特にアジアの中でも途上国の監督などから自分の作品をどこかに収蔵して、きちんと取っておきたい、という思いから直接寄贈を受けることもかなりある。</p> <p>また、共同で行うことで図書館単独で行うよりもかなり費用をかけずに事業を行ったり、部分的にコストを負担してもらったりするなど、寄贈や寄付も含め、関係者の思いを広く受け取りながら事業を進めていきたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>財源確保が難しいところではあるが、いろいろな方法を考えていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p><25 情報発信の推進></p> <p>これは受け取る側としての意見だが、他の市の関係施設のSNSとの連携で、例えばポストをしてもらうことも必要だと思うが、受け取るほうは余りにも情報が多いと見たくないと感じることもある。例えば、情報が定期的に来るメルマガなど、登録はしているものの、余りにも頻繁であると登録解除したくなることもあるので、難しいところだと思う。</p> <p>そのため、必要な情報が取りに行けるよう、キーワードなどが入っていると聞いたことが大事と思う。適度な情報量が重要だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p><8 課題解決型支援の充実></p> <p>医療支援として、がんセンターや済生会の総合病院からの医師等を講師として招いた講演会も大変素晴らしいと思う。それはいいことだ。図書館だからできたと思う。</p> <p>一方で経営相談会は、他都市では図書館が行っていることは知っているが、福岡市で図書館が実施する必要があるのかを確認したい。スタートアップ企画など、図書館ではなく行政のいずれかで実施していると思う。図書館がそれを実施する必要が、どこにあるのかというところをお尋ねする。</p>

事務局	<p>福岡市の施策として、スタートアップは大きな事業、柱として推進している。そういう意味で、スタートアップ施設が設置されている。</p> <p>図書館に立ち寄っていただくことがきっかけになるケースもある。検討している段階の方も多く、図書館に来て本を見るとともに、疑問に思っていることを専門家の方に聞いてみたいという方にはハードルが低いと思う。そういう意味で意義がある取り組みと思う。</p>
委員	<p>図書館がビジネス支援に取り組み始めたのはそこである。専門的ないろいろな機関の講習会には、自分の段階で行っていいのか分からないという方が、図書館だったら気軽に敷居が若干低い、ということで、図書館界全体としてビジネス支援に取り組む流れが誕生しており、その流れの中で福岡市の総合図書館も取り組んでいると思う。入口はいっぱいあった方がいいということだろう。</p>
委員	<p>【評価調書（総括）について】</p> <p>満足度の評価について、開館時間のアンケートなど、いろいろなことに関わってくるが、図書館への来館者にアンケートを行っている。つまり開館時間に来館できない方には、アンケートを行っていないことになるので、市民全体の満足度ではないと感じているがいかがか。全体にアンケートを取ることはとても難しいことと思う。本アンケートでは、高い数値を出すことは当たり前ぐらいの気持ちの方がいいと考える。居心地がいいと思って来る方へアンケートをとっていることになるので、厳しく考えたほうがいいと思う。</p> <p>また、先ほど若い方は行かないと発言されたが、確かにそうだと思う。しかし、子どもの時、小学生や幼稚園の時にしっかり絵本を読むような試みが行われていれば、空白の時間があっても、また必要になったら本を読むこともあると思う。</p> <p>それらのことも考え、子どものところに力を入れていただきたい。</p>
事務局	<p>図書館の利用者アンケートの報告書については1600人の方々に、アンケートを取っている。これは図書館が独自で毎年取れる数値になっている。これを広聴課が行う市全体のアンケートのような無作為の形で行うとなると、毎年実施はできない。そのような状況の中、この手法で毎年集計する設定である。</p> <p>図書館に来た人にのみ聞いたことは発言どおりで、これがすべてとは考えていないが、代表値として、政策上の推進の指針にしていかなければならないものと位置付けている。いろいろ改善の余地はあると思うが、本年度まではこの手法で実施し、次回から数字の取り方、満足度の取り方などを検討したい。</p>
委員	<p>目標数値で令和5年度の数値があり、かなり高い目標数値が書かれているが、これは事務局として実現可能と考えている数値か、あるいは努力目標としての数字か知りたい。</p> <p>もう一つ、今回の福岡市総合図書館新ビジョン基本理念に「交流の拠点となる図書館」とあるが、令和4年度の評価調書で交流という言葉があまり出ていないと思う。どの辺りで評価すればよいか迷っている。</p>

事務局	<p>令和5年度の達成具合については明確な確証はないが、鋭意努力したいと思う。幸いだが、コロナも少しずつ収まりを見せており、また、少しずつだが利用者も増えている。その中で満足度がアップしないといけない、ということも重々わかっている。まずは90%の来館者の満足度が維持されるよう、そして90%を超えられるよう頑張りたいと思う。</p> <p>もう一点だが、交流の部分をどこで見るかという部分が確かに難しいと思う。交流とは人が集まり語らいができることであり、百道地区全体が観光スポットで多くの人に来てもらいたいということなどを踏まえると、「1～5 誰もが楽しめる魅力ある図書館」の部分で評価してもらいたいと思う。</p>
-----	--

(2) 令和元年度新ビジョン事業計画の外部評価の提出について

事務局より外部評価提出方法、評価調書の公表について説明し、委員からは異議なし。

4. 閉 会

(傍聴人退室)

※なお、閉会後に館長挨拶、事務連絡周知

※1～2 5は事業計画一覧表の事業内容